

C-1 指導案

芸術科（美術Ⅰ）学習指導案

学校名 石川県立大聖寺実業高等学校

指導者 職・氏名 教諭 ●● ●●

指導日時・教室 平成18年●●月●●日（●）●●限目・商業デザイン実習室
対象生徒・集団 情報デザイン科 1年生 40人
科目名 美術Ⅰ（単位数 2）
使用教科書 美術1（出版社名 光村図書出版）

1 研究テーマ

- （1）研究テーマ 一人ひとりの意欲を高めるための指導と評価の工夫改善
- （2）研究テーマ設定の理由

創造的な活動に対する関心・意欲を高め、生徒一人ひとりの表現の能力に応じたきめ細かな指導を目指し、生徒が自らの能力の成長を実感できるような題材による指導と評価のあり方を研究する。

2 題材名 「A表現（1）絵画・彫刻」 人物クロッキー ～生き生きと描こう～

3 題材の目標

細部にとらわれずに全体のバランスや動きをかたまりでとらえて描く力を身に付けさせ、描画材料の特徴を生かした線描による豊かな表現を追究させたい。また、短時間のクロッキーを繰り返し意欲的に取り組みせ、クロッキーをとおして描画することの面白さや楽しさを味わわせたい。

- ・クロッキーに関心をもち、意欲的、主体的に表現に取り組み、その喜びを味わおうとする。

【関心・意欲・態度】

- ・対象のよさや美しさをとらえ、表現意図に合った表現方法や材料・用具などを工夫し、創造的に構想する。

【芸術的な感受や表現の工夫】

- ・材料や用具を効果的に活用し、表し方を工夫し、主題の意図を生かして創造的に表現する。

【創造的な表現の技能】

4 指導に当たって

（1）生徒の状況

情報デザイン科1年生として専門の授業でデザインに関わる指導を受け、描画することなどの造形的な活動には前向きに取り組んでいる。しかし、小・中学校での図画工作・美術の時数削減により、経験不足で未熟な点も増えており、美術の基礎的な表現技術や基本的なものの見方やとらえ方などが十分には身に付いていない。生徒一人ひとりの能力に応じた、きめ細かな指導が必要である。

（2）指導方針・方法

クロッキーから得られるメリットは大きいですが、生徒に取り組みせると、たとえば、細部（特に顔）にこだわり全体を描けない場合や、思い切った線描の表現ができない場合など、短時間で描くクロッキーの特徴を生かした表現ができず、目標に到達しないままに学習を終えることが多い。クロッキーは、継続的な取り組みが望まれるが、3段階に分けて描き方のポイントを明確にした短期間での取り組みを計画した。3段階に分けて、クロッキーの描き方のポイントを生徒に理解させ、意欲を持続させながら各段階ごとの描写方法を確実に身に付けさせたい。

（3）教材選定の理由

人物クロッキーには、観察して描く写生表現の能力を高めるために身に付けさせたい多くの要素が含まれる。また、クロッキーは短時間で何枚もくりかえし描くことができ、1枚だけ描く場合の絵画制作に比べて、生徒が自らの描写力の成長を実感することができる。

5 題材の指導計画（総時数 6 時間）

第一次 プロポーションをかたまりでとらえる（2 時間）

1時 人体のプロポーションと骨格について学習する。

- モデルを観察して、体の軸を見つける。
- 2時 かたまりでとらえて、コンテで軸に肉付けをする。
- 第二次 動きをとらえ、線を描き加える（2時間）
- 1時 コンテで肉付けしたシルエットに、体の動きを線で描く。
- 2時 線の表情を意識しながら描く。・・・・・・・・・・・・・・・・・・本時
- 第三次 線で描画する（2時間）
- 1時 コンテの線で表現する。
- 2時 鉛筆の線で表現する。

6 本時の指導と評価の計画（第二次 第2時）

(1) 本時のねらい

- ・積極的に試行錯誤しながら制作に取り組み、表現を深め、さらに練り高めようとしている。
【関心・意欲・態度】
- ・コンテの特徴を生かし、創意工夫して線の表情を表現しようとしている。
【芸術的な感受や表現の工夫】
- ・全体のバランス、動きをとらえ、コンテの特性を効果的に活用し、創造的に表現することができる。
【創造的な表現の技能】

(2) 準備、資料等 作品ポートフォリオ・コンテ・クロッキー用紙、参考作品

(3) 本時の展開

時間	学習内容	生徒の学習活動	教師の指導・留意点	評価規準 【観点】（評価方法）
導入 10分	学習のねらいと内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの学習を振り返る。 ・本時のねらいと制作過程を確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの作品を振り返らせ、クロッキーのポイントを確認させる。 ・ねらいを板書し、制作過程を参考作品で示す。 	
展開 30分	<p>制作①</p> <p>鑑賞</p> <p>制作②</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・コンテでシルエットを描き、モデルの動きをとらえ、線を描き加える。 ・参考作品を鑑賞し、線の表情の違いを確認する。 ・線の表情を意識しながらコンテで線描する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・シルエットの中に動きを表現する線を見つけられるようにモデルには動きのあるポーズをさせる。 ・参考作品で、線の表情の違いについてそれぞれの特徴を見付けさせる。 ※線の表情の違いをわかりやすい言葉で説明する。 ・塗りつぶしを徐々に省かせるようにし、形にこだわらず線の勢いを重視させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・積極的に試行錯誤しながら制作に取り組み、表現を深め、さらに練り高めようとしている。 【関心・意欲・態度】（行動観察） ・コンテの特徴を生かし、創意工夫して線の表情を表現しようとしている。 【芸術的な感受や表現の工夫】（行動観察、作品）
まとめ 10分	学習の振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・制作した作品から本時の学習を振り返る ・次時の予告を聞く 	<ul style="list-style-type: none"> ・線の表情をどのように意識しながら描いたかを振り返らせる。 ・次時は、かたまりと動きを線のみで描くことを伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のバランス、動きをとらえ、コンテの特性を効果的に活用し、創造的に表現することができる。 【創造的な表現の技能】（作品）